

赴任した感想

IASB 客員研究員 さかぐち かずひろ
坂口 和宏



今年1月より国際会計基準審議会（IASB）へ客員研究員（Seconded National Standards Fellow）として出向しております。IASBにはさまざまなプロジェクトがありますが、私はIFRS解釈指針委員会（IFRS IC）担当のスタッフとしてアサインされました。

IFRS ICでは、IFRSの各基準に対する解釈が議論されます。IFRSを採用する国や地域の増加に伴い、実務におけるばらつきも増大してくると考えられ、IFRS ICが果たす役割は今後ますます重要になってくると思われます。先日開催されたIASBボードミーティングにおいて、2011年7月にIASBが意見募集したアジェンダ・コンサルテーションに対するコメントレターの要約が紹介されました。それによれば、多くの回答者が、IFRS ICは今後IFRSを維持していくにあたって中心となる役割を果たすと考えており、担当スタッフとして非常に身の引き締まる思いが致しました。

その一方で、原則主義の国際財務報告基準（IFRS）において解釈指針を簡単に発行すべきではないと個人的に考えています。会計基準とはビジネス実態を正しく表すことを目指すものですが、ビジネスは各企業によって異なり、また各国や地域による慣習の違いも存在します。そのような違いを踏まえた上で、ビジネスの適切な描写となるように経営者が会計処理の判断を行うことが本来の姿であって、解釈指針によって実態の異なるビジネスが画一的に表現されるようなことがあってはなりません。もちろん、IFRSがクリアでないことに起因する実務のばらつきに対しては、IFRS ICとして積極的に関与すべきです。そのような基準の不明確さによるばらつきと、ビジネス実態の判断の多様性を混同しないよう注意を払う必要があると考えています。

IASBは世界の会計基準を作るという重責を担う団体ですが、そこで働く人々は驚くほどフレンドリーで和やかです。スタッフ同士の集まりも多くあり、着任後まだ1か月ですが、既に幾つかの会合に誘っていただきました。今後、ペーパーがうまく書けなかったり、会議での発表が失敗に終わったり、落ち込む時もあるでしょうが、周りの皆さん同様楽しく業務に取り組んでいきたいと思っています。